

服を届けて繋がろう～理解から実感へ～

法政大学永岡ゼミ C 班

渡辺大祐* 齋藤優奈 米田紘一

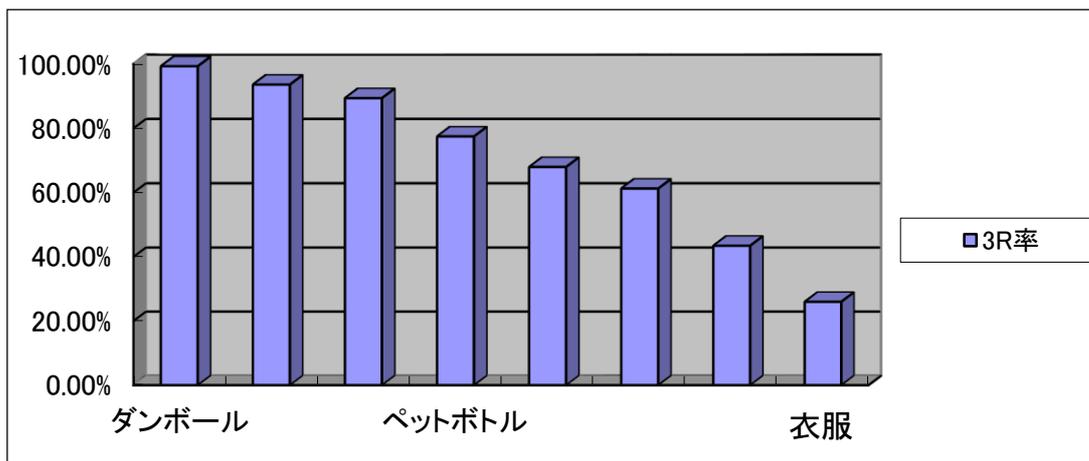
児玉武啓 小堤康平 崔丞模 田中量子

【はじめに】

日本において、1年間に廃棄されている衣服の量は**653,740**トンにも上る。また3R活動により、再資源化されている衣服は全体の**26%**にすぎない。他の品目と比較すると衣服の3R率が低いのは明確である。(図1)衣服の3R率を向上させるために私たちは教育面から改善していくことを提案する。

図1 他の品目との3R率比較

(独)中小企業基盤整備機構「繊維製品3R関連調査事業」より



【現状】

衣服の3Rが進んでいるドイツと比較するとドイツと日本で衣類の3R率には大きな開きがあるのと同時に、日本は衣類の3R活動に対する意識で劣っている可能性があることが分かった。

【問題提起】

衣服の3R率が低いことを問題点として取り上げた。そして、その原因は国民の意識の低さにもあると考えた。

【目的】 将来的に3R率が改善されるように、教育を見直すことで衣類の3R活動に対する意識を変えることを目的とする。

【提案】

テーマ：理解から実感へ

●ターゲット・場所

ターゲットは教育により意識を変えやすいという理由で小学生に設定した。場所は大学の近くということもあり、八王子の小学校に設定した。

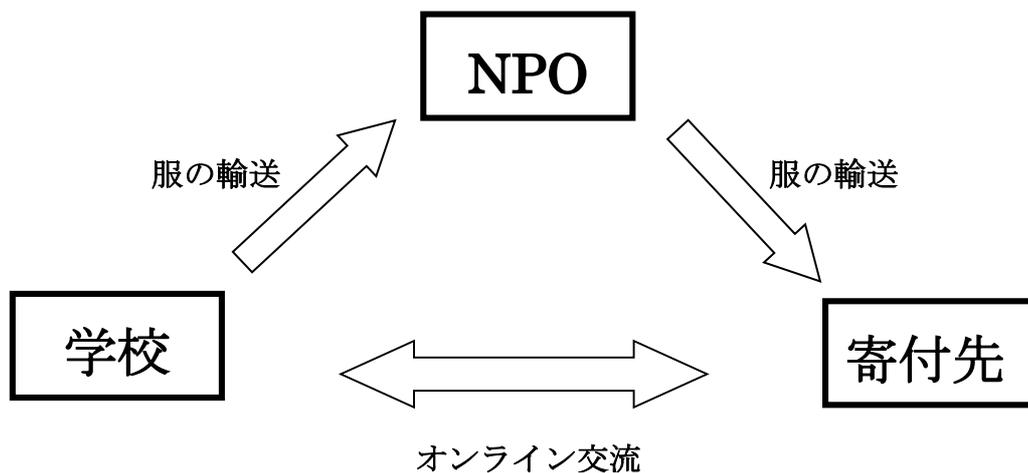
●プランの流れ

①学校で服の3R活動に関する教育を行う。これは現時点ですでに多くの小学校で行われている。

②校内に回収ボックスを設置して、子供たちの服を回収する。①で学んだ知識をすぐに行動に移してもらうことで、服の3R活動をより身近に感じてもらう。

③オンラインなどを活用して、寄付先の子供達と交流する。交流を通して、自分達がおこなった服の3R活動がどのような影響を与えているのかを実感することができる。

●プラン図



【展望】

今回のプランで教育を受けた小学生達が、将来自発的に衣類の再資源化に取り組むことで、日本は3R活動に対する意識がより高い国へと変わり、日本の衣類における3R率は海外と同様に高いものとなるだろう。